

大谷石を用いた現代建築作品の設計論に関する研究  
栃木県宇都宮市を中心とする大谷石建造物に関する研究 (12)

正会員 ○ 高橋 広野\*  
同 安森 亮雄\*\*  
同 大嶽 陽徳\*\*\*

大谷石 現代建築作品 設計論  
主題 素材認識

1. 序 栃木県宇都宮市で産出される大谷石は、独特な質感や優れた加工性から、壁面への張石や造形的な装飾などの様々な建築表現に用いられてきた重要な素材である。大谷石を用いた建築作品の設計論においては、そうした建築表現とともに、大谷石に関する認識が、都市環境との関わりや造形の方法といった主題と結び付けて論じられており、素材と主題を関連付ける思考を読み取ることができる。そこで本研究では、現代建築作品の設計論<sup>注1)</sup>において、大谷石がどのように語られているかを検討することで、大谷石に関する認識とともに、素材と主題を関連付ける建築家の思考の枠組みの一端を明らかにすることを目的とする。

2. 設計論の主題 まず、建築家の大谷石に対する思考の大枠を捉えるため、資料とした設計論から、大谷石を用いて設計を行った際の建築の主題を抽出し(図1)、KJ法<sup>注2)</sup>により意味内容を比較検討した(表1)。その結果、自然や都市などの周辺環境との関係を主題とした【環境的主題】、人間が空間から得られる体験を主題とした【体験的主題】、および建築の空間や形態の構成を主題とした【構成的主題】で捉えることができた。

3. 大谷石の素材認識

3.1 着目対象 資料とした設計論から、大谷石がどのように認識されているかを抽出し検討したところ、素材として着目している場合と、床や壁などの建築部位として着目している場合がみられた。そこで、こうした大谷石をどのような対象として着目しているかを着目対象とし、上述の前者を「石材の大谷石」、後者を「建物の大谷石」として位置づけた(表2)。さらに「建物の大谷石」は積石や張石などの通常の構法と鉄板との組み合わせなどの特殊な構法に分類した。

3.2 着目性質 次に、前節で捉えた着目対象のどのような性質に着目しているか(以下、着目性質)を抽出し検討した(図2)。その結果、温湿度性能や構法的性能などの物的性能に関する性質に着目した《性能》、親和性や重厚感などの人が感じる印象に関する性質に着目した《感覚》、および地域や時間などの社会慣習的な意味に関する性質に着目した《意味》で捉えることができた。さらに、作品の所在地を栃木県の内外で分類し<sup>注3)</sup>、それぞれの割合を比較すると、《性能》に関する認識が県外の設計論で語られる傾向が強く、このことは、物的性能は場所に依存しない性質であることを示していると考えられる。

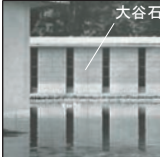
	No. 3 作品名: クラブハウス / 執筆者: 谷口吉郎 / 所在地: 神奈川県 / 掲載: 新建築 1956年1月号 受付でサインして、更衣室へ行く。そこは、耐火構造で、外壁には大谷石を積む。… 外観の壁部は白色の石綿スレート、ネジ止め。袖壁にレンガ又は大谷石を積んで、重量感を添える。このように構造材の固い材質、柔らかい感触、粗いもの、きめのごまかいもの、明るい色、暗い影、日射しと水影、そんな建築的言語が緑の芝生を背景として、造形的韻律を奏することを以て、このクラブハウスの視覚的性格とした。	素材認識 3-a ▶ 着目対象 建物の大谷石 (通常の構法) ▶ 着目性質 (施工性能) 《性能》 素材認識 3-b ▶ 着目対象 建物の大谷石 (通常の構法) ▶ 着目性質 (重厚) 《感覚》 ▶ 主題 空間構成【構成的主題】
---	---	--

図1 分析例

<b>表1 主題の意味内容 (30)</b> 環境的主題 (14) ・自然環境との関係 (8) 土地の潜在的な力を引き出し自然と一体となった豊かな環境がつくれないかと考えた。(No. 25/ 鹿島の研修所 / 堀部安嗣 / SK1011) ・都市環境との関係 (6) 体験的主題 (8) ・人間の空間体験 (7) ここでは外部の印象とは異なり大きな広がりのある空間を感じさせることを意図した。(No. 28/ 南沢の小住宅 / 若原一貴 / JT1305) ・建築の印象 (1) 構成的主題 (8) ・空間構成 (4) レストランは旧帝国ホテルの地下の柱のイメージを展開させた。(No. 10/ デイスターゴ・クラブ / 大坪国男 / SK9110) ・形態構成 (4)
---


<b>表2 着目対象 (82)</b> 石材の大谷石 建物の大谷石 (○) 通常の構法 (□) 特殊な構法 (◇) 
--

表2注) 通常の構法には家具の利用も含む

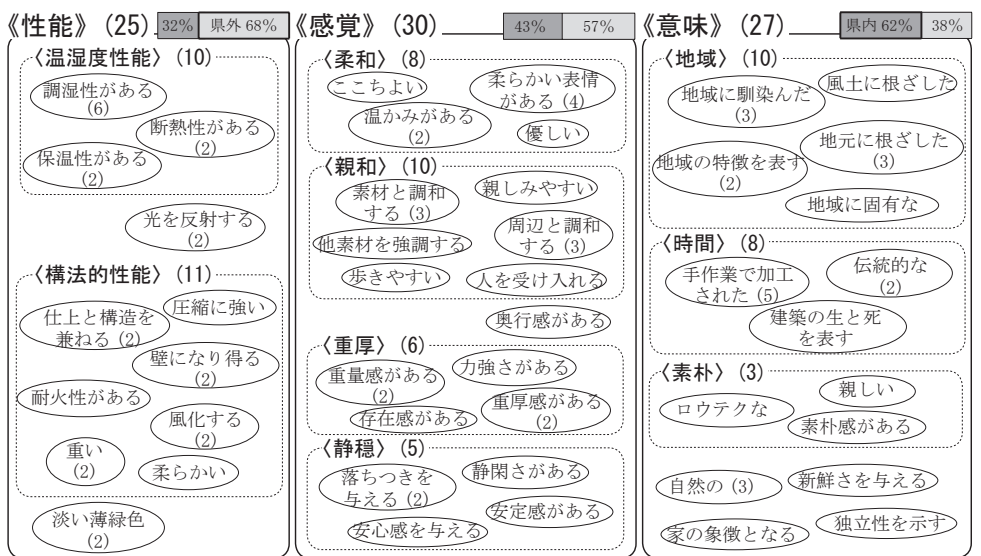


図2 着目性質の意味内容

注) 右上のグラフは栃木県内と県外の着目性質の割合を示す。(82)

Study on Design Theory of Contemporary Japanese Architecture with Oya-stone  
Study on Building of Oya-stone in Utsunomiya City (12)

TAKAHASHI Koya  
YASUMORI Akio  
OTAKE Akinori

